主幹 薬学博士 朝比奈泰彦

植物研究雑誌

THE JOURNAL OF JAPANESE BOTANY

第32巻 第2号 (通巻第349号) 昭和32年2月 発行
Vol. 32 No. 2 February 1957

本誌の創始者 牧野富太郎先生逝く

昭和三十二年一月十八日本誌の創始者牧野富太郎先生は九十五歳の高齢を以て逝去せられた。

先生は明治の初期本邦に於ける近代植物分類学の黎明期以来連綿として最近に至る迄斯学の為に活動を継続されたことは驚異とも云うべき事実で，後進者の尊敬を一身に蒐められたことは云う迄もない。今次の訃報は実に本邦学界の一大損失である。

先生が明治二十年斯学の同志と共に創設された植物学雑誌の内容は漸次生理・形態・生態の方面にも発展し，分類学の為に十分の紙面を分けることが困難となると，敢然として植物研究雑誌の自費刊行を実行に移され（大正五年），爾来数年間行歩艱難，時に殆ど中絶の悲運に直面しながら，先には池永孟氏，中頃には中村春二氏の援助により刊行を継続し，最後に先代並に当代の津村重舎氏の絶大なる支援によつて刊行の基礎を確立された。本誌は其後発展の一途を辿り，昭和八年先生畢生の大事業たる植物図鑑完成の為に本誌の主筆を引退される迄前後十六年間，常に本誌上で新研究を発表され，又植物学に対する大衆の理解と興味とを推進する為に常に椽大の筆を揮われたのである。

吾人先生の衣鉢を継承するものは誓つて先生の遺業を汚さざらんことを先生の霊前に告げる。

朝比奈泰彦

牧野富太郎先生の写真及び署名の説明

東京都名誉都民の称号を受けたのを記念して，練馬区，東大泉町，■番地の自宅，広縁で，昭和 29 年 12 月 17 日に撮影。(東京都提供)

署　名：「**結網学人**」昭和 29 年の年賀状から。93 才と傍記す。但し数え年。

「**牧野富太郎**」昭和 31 年の年賀状から。95 才と傍記す。但し数え年。

「**T. Makino**」明治 27 年に採集した標本のラベルに記したもの。

牧野富太郎先生著作目録 (主に 1935 年以後)

1935 年頃までの分は, Merrill & Walker, Bibliography of Eastern Asiatic Botany pp. 289-297 と牧野植物学全集 (7 巻) に採録されているので, ここにはそれに漏れたものとそれ以後の主なものを掲げる。

植物学講義 7 冊 中興館 (1913-14)

1. 植物記載学 87 pp. (May 1913). 2. 同 (後篇) 150 pp. (Jul. 1913). 3. 植物採集標本製作整理貯蔵法 114 pp. (Aug. 1913). 4. 羊歯及種子植物の形態 (正篇) 120 pp. (Sep. 1913). 5. 同 (後篇) 102 pp. (Oct. 1913). 6. 植物自然分科検索表 114 pp. (1913). 7. 植物分類学 巻 1, 106 pp. (May 1914).

植物採集及び標本調製 50 pp. 岩波生物学講座 (1913).

*原色野外植物図譜 4 冊 誠文堂 (1933). 同 増訂判 (上) pp. 1-200; (下) pp. 201-350 (1941).

趣味の植物採集 206 pp. 三省堂 (1935).

武蔵野の植物 旅 13 巻 4 号 4 pp. (1936).

ブドウ (葡萄) 「333」 創刊号 2 pp. (1936).

日本植物の誇り秋田ブキ アサヒグラフ 27 巻 10 号 3 pp. (1936).

支那の原本を飜刻した「植物学」図書館雑誌 31 年 5 号 (1937).

年首用の植物 サンデー毎日 16 年 2 号 2 pp. (1937).

趣味の草木志 348 pp. 啓文社 (1938).

園芸植物瑣談 (1)-(35) 実際園芸 24 巻 10-12 号 (1938); 25 巻 2-5, 8-12 号 (1939); 26 巻 1-12 号 (1940); 27 巻 1-7, 9-12 号 (1941).

彼岸ザクラ 瓶史 9 巻春の号 4 pp. (May 1938).

能く植物を採集する人は最も能く植物を覚える 採と飼 1 巻 1 号 4 pp. (1939).

シダと羊歯 採と飼 1 巻 1 号 4 pp. (1939).

白井博士の「改訂増補日本植物学年表」を覗く (1)-(3) 図書館雑誌 33 年 4 号 3 pp. (Apr. 1939); 33 年 5 号 3 pp. (May 1939); 33 年 6 号 5 pp. (Jun. 1939).

牧野日本植物図鑑 1070 pp., 7 t. 北隆館 (1940). 改訂版 (7 版) 1070 pp., 11 t. (1949); 追加 pp. 1071-1078 (1950) (10 版 Aug. 1951 から本合); pp. 1079-1080 (Feb. 1953) (15 版から合本).

雑草三百種 282 pp. 厚生閣 (1940).

植物記 420 pp. 桜井書店 (1943).

続植物記 420 pp. 桜井書店 (1944).

結網植物記 (1)-(3) 植研 20 巻 pp. 1-8; 121-128; 290-296 (1944).

牧野植物混混録 Makinoa pp. 1-264. No. 1-10 鎌倉書房, No. 11-14 北隆館 No. 1, 20 pp. May (1946) (ed. 1, 11 pp. 1944); 2 (Jan. 1947); 3 (Mar. 1947); 4 (May 1947); 5 (Sep. 1947); 6 (Feb. 1948); 7 (Apr. 1948); 8 (Sep. 1948); 9 (Dec. 1948); 10 (Mar. 1949); 11 (Jan. 1952); 12 (Mar. 1952); 13 (May 1952); 14 (Oct. 1953).

牧野植物随筆 220 pp. 鎌倉書房 (1947).
続牧野植物随筆 256 pp. 鎌倉書房 (1948)
趣味の植物誌 277 pp. 壮文社 (1948).
*学生版牧野日本植物図鑑 460. 北隆館 (1949).
四季の花と果実 90 pp. 通信教育振興会 (1949).
図説普通植物検索表 1. 草本 327 pp., 53 t. 千代田出版社 (1950).
*原色日本高山植物図譜 160 pp. 誠文堂新光社 (1953).
随筆植物一日一題 279 pp. 東洋書館 (1953).
*原色少年植物図鑑 350 pp. 北隆館 (1953).
*学生版原色植物図鑑 (園芸植物篇) 300 pp. 北隆館 (1954).
同上 (野外植物篇) 300 pp. 北隆館 (1954).
花式を書く興味 採と飼 16 巻 11 号 (1954).
フヂバカマ 採と飼 17 巻 1 号 (1955).
牧野植物一家言 221 pp. 北隆館 (1956).
草木とともに 282 pp. ダヴイド社 (1956).
植物学九十年 238 pp. 宝文館 (1956).
牧野富太郎自叙伝 275 pp. 長嶋書房 (1957).

* 印の著書には他の方々が参与されました。

朝比奈泰彦*: 地衣類雑記 (§ 121–123)

Yasuhiko Asahina*: Lichenologische Notizen (§ 121–123)

§ 121. A revision concerning Thysanothecium nipponicum Asahina.

Thysanothecium casuarinarum Groenhart in Reinwardtia, **2** (Part 3): 388 (1954).

subsp. **nipponicum** Asahina

Th. nipponicum Asahina in Journ. Jap. Bot., **31**: 65 (1956).

A typo differt thallo saepe glaucescenti-albido, podetiis magis evolutis et discis vulgo convexis immarginatisque.

After my publication of *Thysanothecium nipponicum* I noticed the paper by Groenhart, who described an Indonesian *Thysanothecium*. Studying his description I became aware of the close resemblance of the both plants. Recently Dr. Groenhart sent a small specimen of *Th. casuarinarum* to Dr. Sato. In this specimen I could confirm also the presence of the divaricatic acid. This physiological coincidence, together with morphological resemblance, requires the transference of the

* 資源科学研究所. Research Institute for Natural Resources, Shinjuku, Tokyo.